

Kyoto Hollywood News 京都ハリウッド通信

美術費3億円を使い切った! 衣装一着5百万円!

「ひかる源氏物語・千年の恋」

【豪華権欄絵巻】



東映が来春の公開を目指す超大作「千年の恋ひかる源氏物語」の撮影も、いよいよ大詰め。以前ご紹介した様に出演者も豪華だが、それに劣らず絢爛豪華なのがセットと衣装。何しろ平安時代が舞台なので、通常の時代劇のセットや衣装の流用が不可能で、ほとんどをこの作品のためだけに新調。セットは3億円の予算を費やし、設計に3カ月、建て込みに半年をかけた破格

の規模。平安時代の建築物の特徴である丸柱も一本一本、大道具さんがカンナで削った手作りの逸品。また衣装も俳優一人が着用する十二単を全て新調、一人が着用する衣装の総額が500万円というから驚きた。真夏の京都で猛暑に耐え、その衣装をまとって奮闘する紫式部役・吉永小百合と紫の上役・常盤貴子の二両名が、その苦労を語る。

インタビュー・吉永小百合

■衣装はいかがですか？

「織りの着物は重し暑いですね。十二単だと身動き出来なくて口紅も自分で直せないし大変です」

■髪の毛はナチュラルですが自毛ですか？

「いいえ全部かつらです。でも長いので重く、腰に來ますね(笑)」

■平安時代について感じられた事は？

「平安時代に生まれなくて良かった。この時代は照明が少ないから、夜はすごく暗かったんです。だから男性と女性は夜の逢瀬、ちゃんと顔を確かめ出来なかった。私は面食いだから、その点がイヤですね(笑)」

■役作りで悩まれた事は？

「役が大き過ぎて悩んで、最終的に一人の平安の女性の想いや悩みを演じられればいいかなと思っていました。紫式部は自分を失わないクールでシビアな人。私とは違いますよね(笑)。とてつもないプレッシャーはありましたが、編集で夢とつづがうまく織り成せれば、きらびやかな映画に絶対なると思います」

■光源氏役の天海祐希さんはいかがでしたか？

「みずみずしくて凛々しい、性を越えた不思議な美しさを感じます。あれだけ美しければ私も恋をしていたかもしれませぬ」

■21世紀を迎えて、新世紀ならではの「源氏物語」にはなっていますか？

「はい。源氏物語と言えば和歌のやり取りですが、今回はその辺がミュージカル風になっています。和歌にメロディが付いてるんですよ(笑)」

インタビュー・常盤貴子

■衣装をまわされての感想は？

「ものすごく暑いんですね。汗をかかないタイプなんですけど、以前経験した香港映画のタイのロケ現場と同じ位の汗をかいています。だから吉永さんを見習って水分は控えています。トイレも衣装を脱がなければいけないから。脱水症状の不安がある時だけ飲んでます(笑)」

■撮影現場はいかがですか？

「京都はコワイっていう人も聞かなくて不安でいっぱいでした(笑)。でも実際はみなさん明るくて職人気質。かなり重められてイメージが伝わってるんじゃないでしょうか。京都撮影所は私の大好きな関西の感じ。キツイとかコワイとかは東京の感覚なんですけどね。私の邦画初出演が京都で本当によかったです」

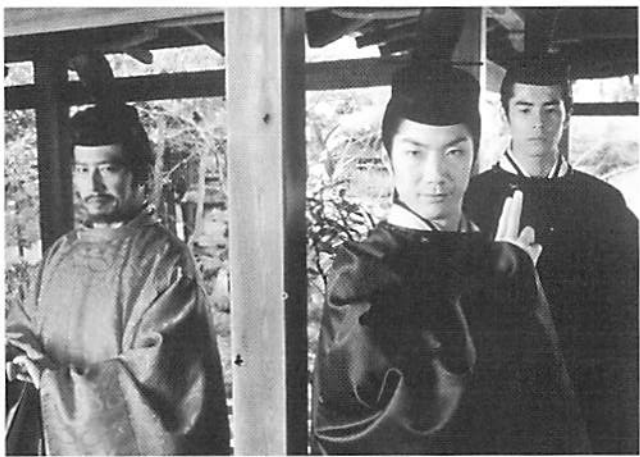
■連ドラの人気者なので映画のオファーも多いと思いますが、今回の出演を快諾された理由は？

「映画に出演するのに関して私が重視するのは、自分がお金を払って見たい映画かどうかという事なんです。映画館に足を運びたくなるような映画ならではの映画。今回は東映創立50周年記念映画というだけでテンションが上がりました。お祭り好きです(笑)。夢の国に連れて行ってもらって感じです」

妖艶・野村萬斎が平安の闇を彩る！
映画「陰陽師」公開迫る！

夢枕獏のベストセラー小説「陰陽師」が、狂言界のプリンス・野村萬斎主演で映画化。10月6日より全国東宝系にて公開される。同原作は先頃、NHKで放映された稲垣吾郎主演のドラマ版も記憶に新しいが、映画版はまさしくファン待望の決定版。平安京を舞台とし、怨霊や鬼から都を守る陰陽師・安倍晴明（野村萬斎）の活躍を描く伝奇ロマン。共演は元SP・E・Dの今井絵理子、小泉今日子、真田広之ら。出演者に劣らずスタッフも一流。「Shari weダンス？」をそれぞれ担当した撮影・稲野直樹、照明・長田達也。録音は「マルサの女」「ホワイトアウト」の小野寺修と「リング2」の桶沢謙。編集は「ガメラ」シリーズ、「秘密」の富田功、またキートンビジュアル・コンセプトデザインは「ファイナルファンタジー」で世界的な評価を得、海外を拠点に活躍するアーティスト・天野喜孝。音楽は「眠らない街」「新宿鮫」「不夜城」の梅林茂。そして監督は「コミック雑誌なんかいない」としてニューヨーク映画祭の絶賛を浴び、「病院へ行こう」「僕らはみんな生きている」「シヤルQの演歌の花道」「秘密」などを演出した滝田洋二郎。

本年2月16日の京都ロケから撮影を開始。南禅寺、大覚寺、仁和寺他でロケーションを敢行。その後、東京の日活撮影所をベースに撮影、4月中旬にクランク・アップした。平安京を再現するため、ほぼ全編に渡りCG処理を施し、8月中旬に完成。原作権獲得から2年半を費やした超大作の全容は次号にて徹底紹介。ご期待あれ！



日本映画界が熱いオファーを傾けた狂言界のプリンス・野村萬斎の初主演作。晴明（野村萬斎）の宿敵・導師を真田広之が、これまでにない冷徹無比なキャラクターで挑む。

野村萬斎

66年4月5日、東京生まれ。狂言師・野村万作の長男。94年、曾祖父の五世万造の隠居名「萬斎」を襲名。同年NHK大河ドラマ「花の乱」に細川勝元役で出演。'97年NHK朝の連続ドラマ「あぐり」に望月エイスケ役で出演し数々の賞を受賞。本作「陰陽師」が初主演作となる。



萬田久子・美人スリから眼科医に転職！
土曜ワイド劇場・新シリーズ

「眼科医小室瞳の推理カルテ」

好評「美人スリ三姉妹」シリーズに続く萬田久子主演の「土曜ワイド劇場」新シリーズが「眼科医小室瞳の推理カルテ」だ。出演は萬田久子、辺見えみりのお馴染み「美人スリ」シリーズ・コンビと、中山忍、西岡徳馬ら。眼科医・小室瞳（萬田久子）が熊取



京都市内のホテルで殺人事件が発生。犯人はホテル内にいた者の中の一人に間違いない。その中にはフリーランスの教師・永川雪乃（中山忍）もいた。

今日の言葉

朝日放送の看板番組「部長刑事シリーズ」の秋からの新シリーズのメイン・ライターを担当という名誉をいただき、現在奮闘中。メイン・ライターは番組の設定作りから関わるのでなかなか大変。番組のカラーを統一するために登板も多く、小説の執筆と重なって時間のやりく

TOPICS

「怪・安倍晴明」ビデオ・DVD

陰陽師・安倍晴明を徹底検証した京極夏彦・渾身の映像「怪・安倍晴明」ビデオ・DVDが発売される。「京極夏彦氏、荒俣宏氏、小松和彦氏、そして「陰陽師」の夢枕獏氏が晴明を徹底検証するビデオ「怪・安倍晴明」は、ナレーション、編集、エフェクトを京極氏が手掛けるなど、二時間に及ぶ厚身の力作。企画・構成は小生が担当。晴明にまつわる史実、逸話、伝説、旧跡を紹介、各氏の解説も入るといふ、晴明ブームの真っ只中にある、まさしく決定版と呼ぶに相応しいソフトだ。9月25日に角川書店・ツタヤよりビデオレンタルと同時に、DVDがリリース。ビデオはレンタルのみ、DVDはセルのみで4800円。

「科捜研の女」

沢口靖子主演で好評だった連続ドラマ「科捜研の女」の第2部が東映京都撮影所で製作中。沢

中村雅俊が京都を駆け巡る！「オヤジ探偵」

永遠の青春熱血漢・雅俊兄弟が事件を追って京都を駆け巡る！



かつて松竹京都映画撮影所で撮影されていた、必殺シリーズ20弾「必殺渡し人」(83年)で、許せぬ悪を始末する三途の川の渡し人・惣太を演じレギュラー出演していた中村雅俊が、久々に京都で撮影する連続ドラマ。今回は東映京都撮影所製作の現代劇で、私立探偵・早乙女公彦に扮し京都の町中をエネルギーに走り回って回っている。共演は遠藤久美子、岸田今日子、二時間ドラマの女王・片平なぎさという豪華メンバー。

私立探偵・早乙女公彦は元警視庁の敏腕刑事。だが組織に馴染めず退官、京都の老舗土産物屋の入り婿となる。しかし高才のない公彦は店の二階を事務所として探偵業を始めるという設定。

しかし公彦の溺愛する一人娘・黎（遠藤久美子）が、事もあろうに京都府警の刑事となってしまう、事件で二人が度々鉢合わせ。互いが同じ事件を追ってライバル関係となってしまふ。その度に家庭不和となり、姑・郁（岸田今日子）から、生粋の京女ならではのイヤミを見舞われてしまふ。黎の上司は独身の敏腕女刑事・白瀬真由美（片平なぎさ）。娘に平凡な主婦になってほしいと願う公彦は、黎に白瀬を引き合いに出して諭すが、黎はまるっきり聞かぬ。「オヤジ探偵」は毎週木曜夜8時、テレビ朝日系にて放送中。



公彦と黎は父娘でありながら探偵と刑事としてライバル関係に。左から中村雅俊、片平なぎさ、遠藤久美子

「白い犬とワルツを」

映画「白い犬とワルツを」が松竹京都映画を中心に集団市などでロケ。7月中旬に撮影を終了した。原作は同名のアメリカンのベストセラー小説。この小説は「マディソン郡の橋」と共に1992年、アメリカ書籍販売業者連盟年間推薦図書候補となり、翌年も引き続き候補となった程の名作。アメリカではジェシカ・ラングらの出演でテレビドラマ化された。日本ではNHKで放送もされている。今回の作品はその日本版で、監督は月野木隆（第1回監督作品、脚本は「男はつらいよ」の「釣りバカ日誌」、「ラブレター」等の森崎東、出演は仲代達矢、藤村志保、南果歩ら。70歳を過ぎて妻と息子を亡くした男が、不思議な白い犬と出会い交流を深めるうちに、生きるという事の意味を問いただすという物語。今秋に全15館の単館で公開予定。

口靖子は猛暑の京都の街中を、暑さにはげず奮闘中。秋よりテレビ朝日系で放送開始予定。

2001年9月1日 山田誠二

責任編集人 山田誠二
1963年生まれ。京都を拠点に、映画のプロデューサー、脚本、評論の他、コミック原作など多方面で活躍の作家。映画関連著作多数執筆。

眼科医・小室瞳（萬田久子）と新聞記者・水木亜由美（辺見えみり）は京都の町に起こった殺人事件の謎を追う